

3.カリキュラムについて考える

令和5年度 文化庁日本語教育大会 ワークショップ

担当講師:伊藤秀明(筑波大学)

この時間のねらい

- 分野ごとの現場に合わせたカリキュラムの作成方法について検討することができる
- 現場に合わせたカリキュラム作成に関する困難点・課題とその対応についておおまかに理解することができる。

2コマ目（後半）

【生活分野：子育てをする保護者】

3コマ目

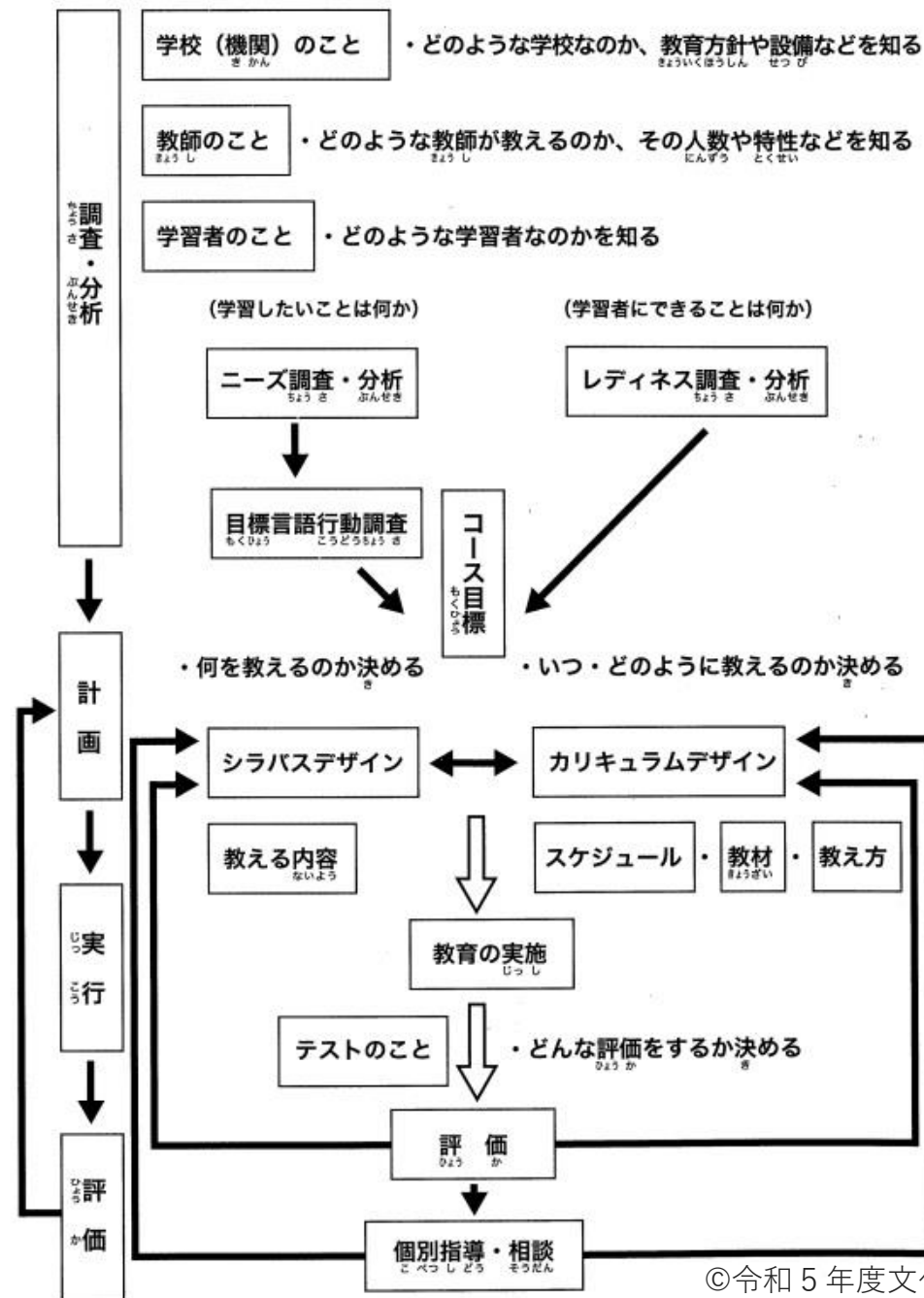
それぞれの分野ごとに、具体的なカリキュラム
デザインの方法を考える

この時間にあるグループワーク

- ① 学習者像（プロフィール）の設定
- ② コース全体の目標
- ③ ユニット1つ分の目標Can do（現場Can do）を考える

コースデザイン

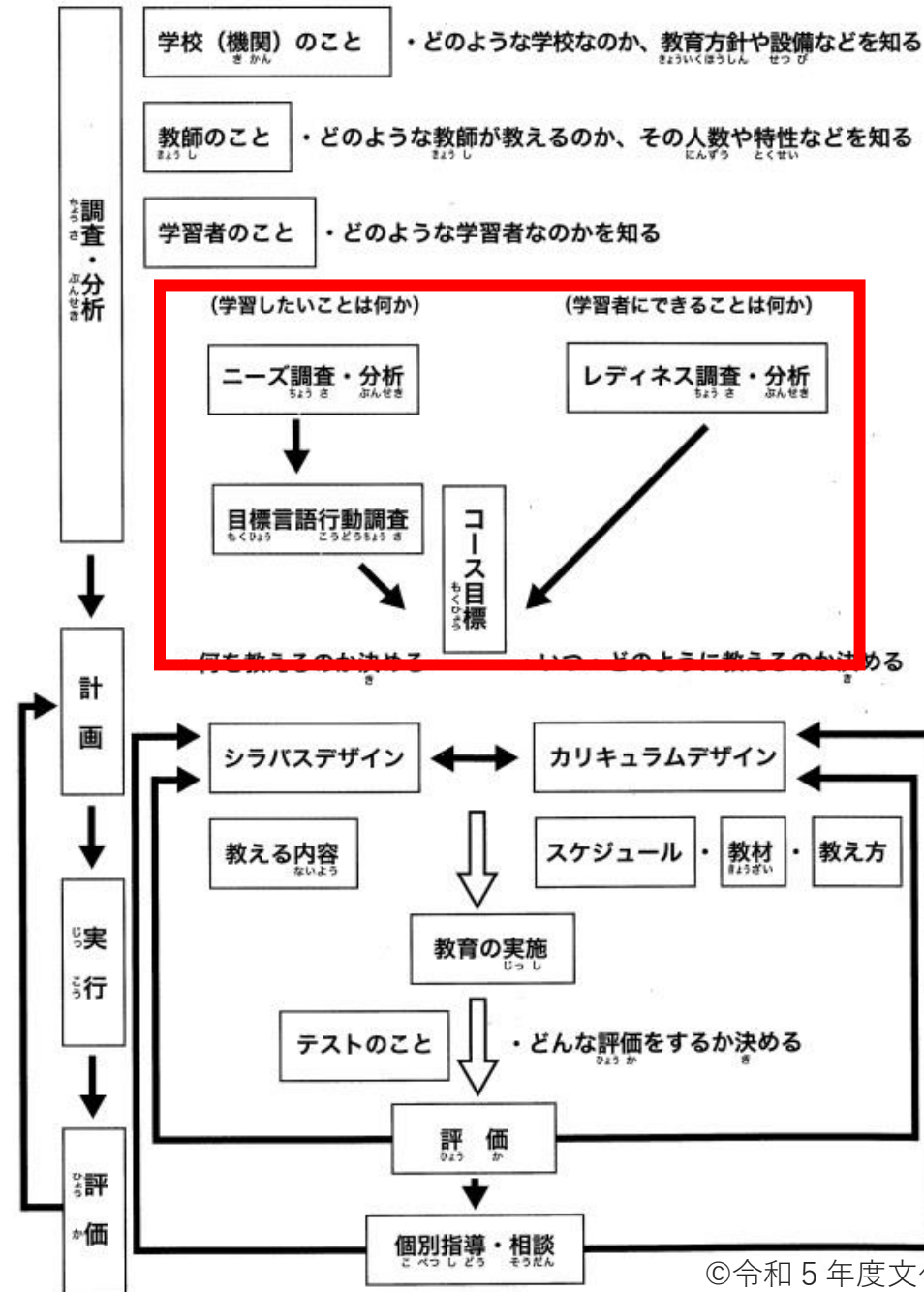
図4 コースデザインの流れ



国際交流基金（2006）『日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房, p.8

図4 コースデザインの流れ

コースデザイン



国際交流基金（2006）『日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房, p.8

コースデザインを振り返る

- コースデザインを行う上で重要になる視点(考え方)
 - ① 日本語学習者が社会の中で取り組まなければならない言語的な課題は何か？
 - ② そのために必要な日本語でのコミュニケーションは何か？

(1) 学習目標を設定する

【目標とする現実社会の具体的な言語課題の設定】

- 今すぐできるようにになりたい言語課題は何か。
 - ・子育てに関する情報（乳幼児健診や予防接種など）を理解できる
 - ・わからないことについて周囲に質問できる
 - ・育児に関する困りごとについて周囲に支援を求めることができる

- 将来必要となる言語課題は何か。
 - ・他の保護者と良好な人間関係を築く
 - ・園や学校の教員と子どもについて意見を交換することができる

- どのような言語使用者を育成するのか。
 - ・社会から孤立することなく、自国で子育てをするのと同様に、地域社会の中で他者との関わりを持ちながら自分らしい子育てをする

1) 調査・分析

- 学校（教育機関）、教師、学習者の3つの要素について把握する
- 学習者については、日本語学習に関するニーズ調査やレディネス調査
- 学習者が目標とする日本語がどのようなものかを把握するために、現場の目標言語を調べる

コースの目標設定

- 「日本語教育の参照枠Can do」
- 「資料4:3分野ごとの言語活動の目標」

現在のコースが目標としているレベルを確認
各授業の目標を設定

(1) ①コース目標の設定

【言語活動別の熟達度(自己評価表)】

4 言語活動別の熟達度					
段階	レベル	理解すること		話すこと	
熟達した言語使用者	C2	生であれ放送されたものであれ、自然な速さで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難なく理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門の記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。自分を流ちょうに表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。表現上の困難に出ても、周りの人がそれにほとんど気が付かないほどに修正し、うまく繕うことができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流ちょうに記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。
	C1	たとえ構成がはっきりとなく、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学作品を、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関連外の分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。	言葉を探らずに流ちょうに自然に自己表現ができる。社会や、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせるができる。	複雑な話題を、派生の話題にも立ち入って詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。
自立した言語使用者	B2	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。大抵のテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。共通語の映画なら、大多数は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	流ちょうに自然に会話をする事ができ、熟達した日本語者と普通にやり取りができる。身近なコンテキスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	興味関心のある分野内なら、幅広いいろいろな話題について、明確で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明確で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人の若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起ったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの)直接自分につながる領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測が付けられる情報を取り出せる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙なら書くことができる。例えば礼状など。
	A1	はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	例えば、掲示やポスター、カタログの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いた答えたりできる。	新年の挨拶など短い簡単な文章を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。

○「日本語教育の参照枠」では、言語活動別の熟達度について、CEFRに掲載されている「共通参照レベル：自己評価表」に準じたレベル及び言語能力記述文を設定する。レベルと言語活動の軸は「日本語教育の参照枠：全体的な尺度に合わせて転換した。翻訳については、CEFR日本語版(2014年追加版)の訳文を基にし、CEFR補遺版を参考に一部修正を加えた。

コース目標:

子育ての場面で自分に直接的な関係がある、よく使われる語彙や表現が理解できる。子育てをする中で身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。(A2)

【3分野ごとの言語活動別の目標】

3分野ごとの言語活動別の目標						資料6
レベル	学習時間 ^{※1)}	生活分野における言語活動ごとの目標 ^{※2)}				
		言語活動共通				
		聞くこと	読むこと	話すこと (会話)	話すこと (発表)	書くこと
A1	100～150時間 134～200 単位時間	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や家族などを紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、また助け船を出してくれるなら、身近な話題についてのごく簡単な質問について、聞いた答えたりできる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、ごく簡単な言葉や文を使って話すことができる。	新年の挨拶などの短い簡単なメッセージや名前や住所などを書くことができる。
		言語行動共通Cando				
A2	100～150時間 134～200 単位時間	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、居住地域、職業など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	自分や家族など身近な話題でよく使われる語彙や表現を理解することができる。短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中の短い簡単な文なら理解できる。簡単に短いた個人的な手紙は理解できる。	身近な話題や活動についての短い簡単なやり取りができる。短い社交的なやり取りをすることができる。	家族、周囲の人々、居住地域などの身近な話題について、短い簡単な文を使って説明できる。身近な事柄なら短いメモやメッセージを書くことができる。ごく簡単な個人的な手紙を書くことができる。
		受容Cando 産出Cando				
B1	150～220時間 200～294 単位時間	日常生活で遭遇するような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。日常生活で起こるような、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のある文章を作ることができる。経験、出来事、夢、希望などを説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。	日常生活における共通語での会話なら要点を理解することができる。ゆっくり、はっきりとしているなら、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近な話題や個人的に関心がある内容の文章なら理解できる。出来事、感情、希望が表現されている文章を理解できる。	日常生活において起こる大抵の状況に対応できる。日常生活に関することや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	経験や出来事、将来の夢や希望などを簡潔に語る事ができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に話すことができる。本や映画のあらすじを話し、感想や考えを発表できる。
総学習時間 総単位時間	350～520時間 468～694単位時間					

【※1】1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について(報告)」p.64において示された学習時間の考え方で示された学習時間数。
【※2】各レベルの目標は「日本語教育の参照枠(報告)」p.23-48「言語活動別の熟達度」、「活動Can do一覧」を参考に作成。

バックワード・デザイン（逆向き設計）

目標

(1) 学習目標を設定する



評価

(2) 学習目標を達成したことを測る
効果的な評価方法を決める

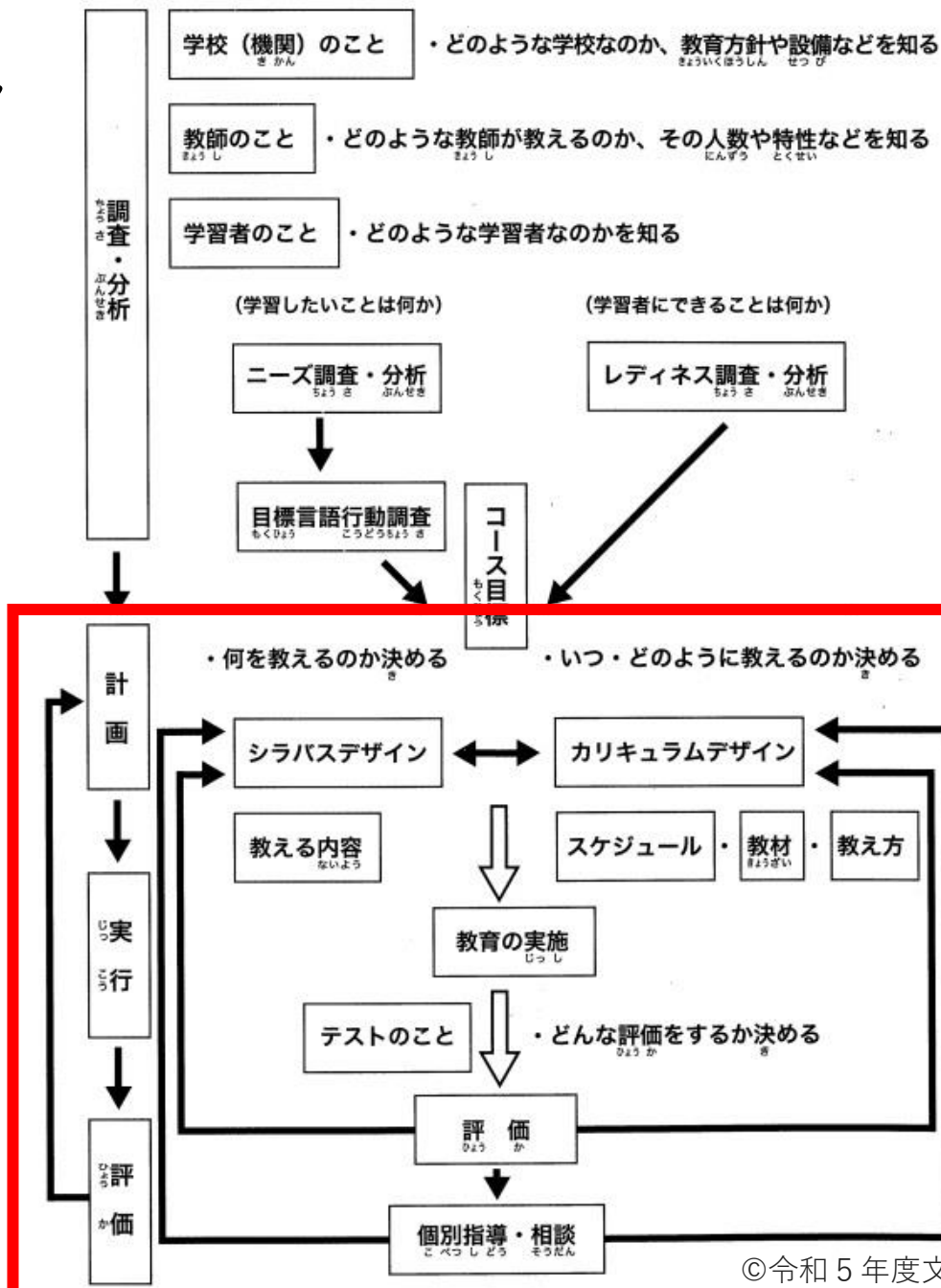


授業内容・方法

(3) 学習目標が達成できるようになるための
授業内容や方法を考えて
カリキュラム全体を設計する

コースデザイン

図4 コースデザインの流れ



国際交流基金（2006）『日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房, p.8

2) 計画

- ニーズ調査などの分析を踏まえて、教える内容（シラバス）を決定
- 「いつ」「どのように」教えるかを計画するカリキュラムデザインを行う
- カリキュラムデザインでは、コースの目的、到達目標、学習項目、各回の学習時間とスケジュール、教え方、教材・教具、教室活動、評価の方法などを決定

各授業の目標を設定（シラバスデザイン）

- 「日本語教育の参照枠Can do」は、五つの言語活動別に、多様な言語使用場面（カテゴリー）とともに例示
- コースの目標レベルや学習目的などを考慮して、参照枠のCan doを参照して単元や授業の学習目標を作成
- 例：「自己紹介」
- 学習者が現実のどのような場面で自己紹介をすることが必要なのか
- 「日本語教育の参照枠」のCan do、「話すこと（やりとり）」の中の（4）A1【会話】のカテゴリー「紹介や基本的な挨拶、いとまごいの表現を使うことができる。」
- 学習者にも伝わるように「近所の人に自分のことを紹介したり、挨拶やお別れの言葉を表現を使って関係を維持することができる」と書き換え
- 各課の最終目標としてコミュニケーション活動を考え、Can doで学習目標のリストを作成

(1) ②各ユニット・各授業の学習目標の設定

【シラバスデザイン】

コース名： 子育ての日本語

対象者： 乳幼児を育てる保護者

コースの目標：

子育ての場面で自分に直接的な関係がある、よく使われる語彙や表現が理解できる。子育てをする中で身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。(A2)

「生活Cando」は生活上の行為(状況・場面・行為)が具体的に示されているため、シラバス設計にも役立つ

シラバス：

ユニット1	乳児検診を受けよう
ユニット2	児童館に行こう
ユニット3	公園に行こう
ユニット4	子育てイベントに参加しよう
ユニット5	入園面接
ユニット6	子どもの病気
ユニット7	保育園／幼稚園の生活
ユニット8	保育園／幼稚園の行事
ユニット9	園の先生と話そう
ユニット10	他のお母さんお父さんと話そう

(1) ②各ユニット・各授業の学習目標の設定

【シラバスデザイン】

コース名：子育ての日本語

対象者：乳幼児

コースの

子育て

係があ

が理解で

近で日常の

換に応じることが

「生活Cando」は生活上の行為（状況・場面・行為）が具体的に示されているため、シラバス設計にも役立つ

留学分野・就労分野は、
留学／就労の上で「具体的な言語的課題は何か」を
コース目標から分割・具体的にしてい
(参照枠はあくまで「参照」 目の前の人を大切に)

ユニット9

ユニット10

保育園／幼稚園の生活

保育園／幼稚園の行事

園の先生と話そう

他のお母さんお父さんと話そう

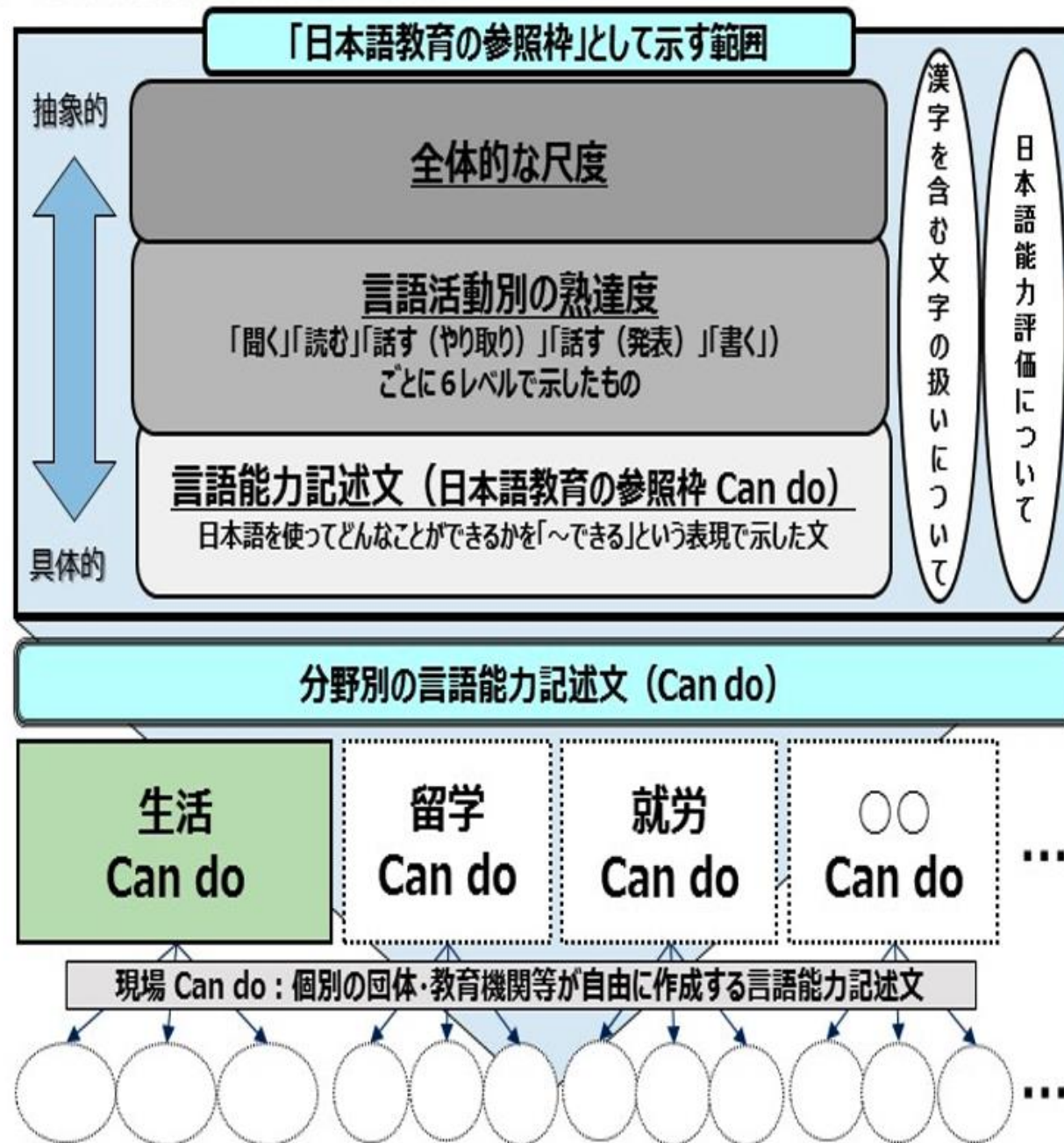
(1) ②各ユニット・各授業の学習目標の設定

ユニット1	乳児検診を受けよう
ユニット2	児童館に行こう
ユニット3	公園に行こう
ユニット4	子育てイベントに参加しよう
ユニット5	入園面接
ユニット6	子どもの病気
ユニット7	保育園／幼稚園の生活
ユニット8	保育園／幼稚園の行事
ユニット9	園の先生と話そう
ユニット10	他のお母さんお父さんと話そう

ユニット6：子どもの病気

ユニット6の学習目標: 子どもが病気になったとき、保育園や幼稚園と必要なやり取りをすることができる(A2)

授業① (45分～)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる (生活Cando 290)【聞く】
授業② (45分～)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる (生活Cando 289)【読む】
授業③ (45分～)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる (生活Cando 286)【書く】
授業④ (45分～)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる (生活Cando 232)【話す(やり取り)】



特に留学分野・就労分野は参照枠Can doから具体化していく必要がある

(3) 授業内容や方法を考える

【課題達成に必要な語彙・文型・コミュニケーション能力の検討】

ユニット6: 子どもの病気

授業① (45分)	子供の発熱や体調不良などで、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な説明や指示を聞いて、理解することができる(生活Cando 290)
授業② (45分)	保育園や幼稚園からくる短い簡単なメールなどを読んで、行事の中止や延期、学級閉鎖の期間や該当クラスなど、必要な情報を探し出すことができる(生活Cando 289)
授業③ (45分)	保育園や幼稚園などの連絡帳(又は連絡アプリの該当する箇所)に、子供の体調について心配なことや、お迎えの人や時間の変更などを、短い簡単な文で書くことができる(生活Cando 286)
授業④ (45分)	子供が体調不良のときに、どんな対処法を取っているかなどについて、友人に質問したり、答えたりすることができる(生活Cando 232)

語彙:

発熱 ○度 お熱がある お熱が出た 顔色が悪い
腹痛 お腹が痛い ぐったりしている 食欲がない
保健室 横になっている お迎え
徒歩 自転車 車で 受診

文型:

熱が37.5度ありますので、お迎えに来ていただけますか？
何時ごろ 来ていただけますか？
どなたが いらっしゃいますか？
熱が続くようなら、受診をお願いします

方略(ストラテジー):

- ・相手の言うことが分からないとき
- ・指示内容を確認するとき

グループワーク

グループワークの流れ

① 各分野ごとにブレイクアウトルームに分かれる



② ブレイクアウトルームでグループワークに取り組む

生活：関崎 留学：松井 就労：佐藤



③ メインルームに戻る



④ 全体で共有

各分野ごとに取り組む内容

- ① 学習者像（プロフィール）の設定→ポイント
（今回はメンバー間で架空の学習者を設定）
↓
- ② コース全体の目標→ポイント
（今回は1ユニット=1コマ45分×4コマを10ユニット=計40コマを想定）
↓
- ③ ユニット1つ分の目標Can do（現場Can do）を考える→ポイント
↓
- ④ （Can do を達成するための語彙や表現などを選ぶ）

それでは、ワーク開始です。

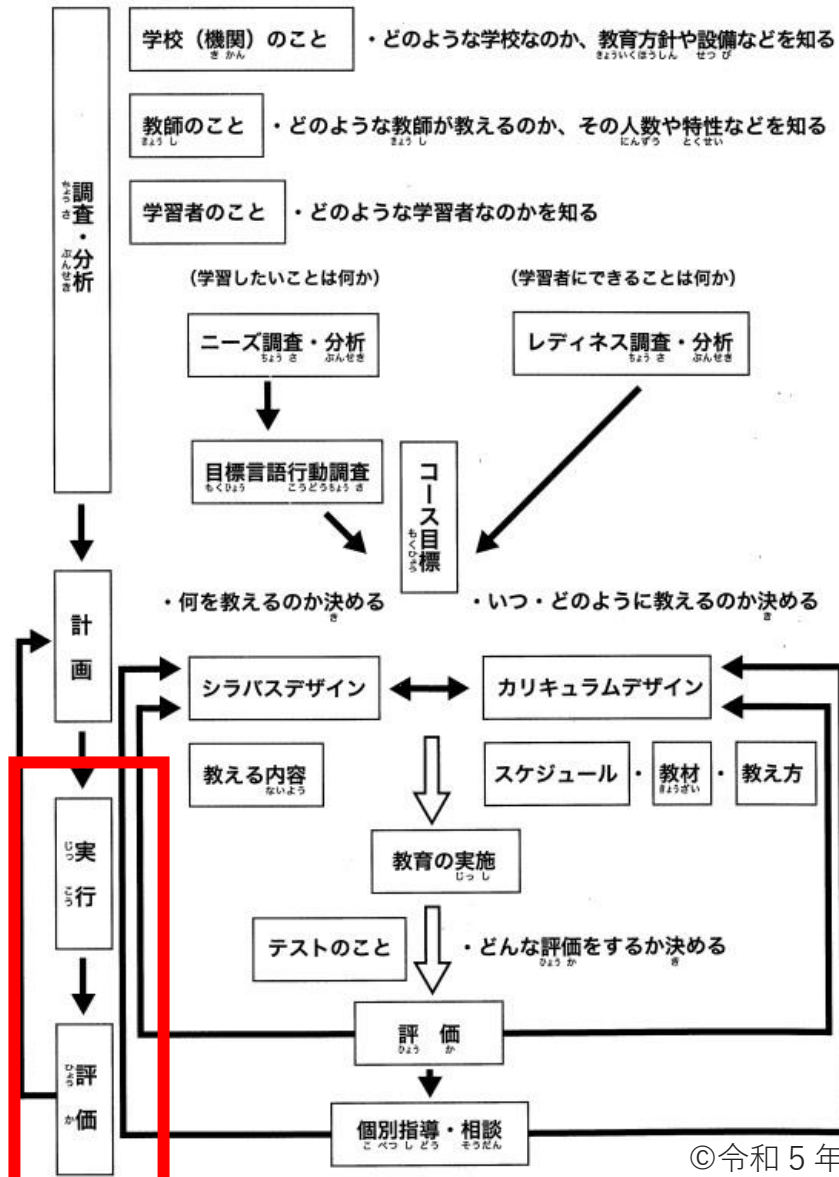
ワークシート紹介（各分野 3分）

- 自分たちの分野と同じところ、違うところはどこでしょうか。
- その分野らしさはどんな点でしょうか。

Q&Aの時間はあとで取るので、まずはじっくり聞いてみてください。

計画を立てたあとは、【実施・評価】

図4 コースデザインの流れ



国際交流基金（2006）『日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房, p.8

3) 実施・評価

- 計画段階で考えたことに基づいて日本語教育を実施
- コースが開始する前の段階でプレースメント・テストを行い、日本語の習熟度を把握しクラス分けに反映させることもある
- コース開始後は、クラスのサイズや諸条件の下で具体的な指導や練習などの活動を行う
- コースの途中または終了時には、学習目標の達成を確認するためにテストやその他の評価を行う
- 一連のコースの実施結果をもとに分析・点検を行い、次のコースの改善を行う

アセスメント(タスクや評価の用意)

- 学習目標が決まったら、目標の達成状況を確認するためのタスクや評価基準を用意
- 2コマ目では、パフォーマンス課題として「ロールプレイ」と「メモを書く/スマホアプリに書く」の例を紹介([2コマ目スライド](#))
- 形成的評価として行う場合は、カリキュラムの内容を着実に身に付けているのか、学習成果や習得状況を知るために行う
- 統括的評価として行う場合は、コース全体の教育と学習の成果を確認する(期末試験や修了試験が該当)

(2) 評価方法を考える

【評価基準の検討】・・・どのような観点で評価するのか？

活動 Can do	言語活動についての言語能力記述文
	「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の五つの言語活動ごとに「広報・アナウンスや指示を聞くこと」、「説明書を読むこと」、「情報の交換」、「長く一人で話す：経験談」、「通信」などのカテゴリーを設けている。
方略 Can do	言語使用の際のストラテジーについての言語能力記述文
	方略とは、 <u>分からない言葉を推測したり、質問したり、あるいは聞き取りにくい言葉について聞き返したりするなどの行動を指す。</u> C E F Rでは、「モニタリングと修正」、「手掛かりの発見と推論（話し言葉と書き言葉）」、「発言権の取得・保持」、「説明を求めること」などのカテゴリーがある。
テキスト Can do	一まとまりの表現を扱うことについての言語能力記述文
	話し言葉、書き言葉についての一まとまりの表現を扱う能力（要約、言い換え、書き写し）を示した言語能力記述文。「ノート取り（講義やセミナー）」、「テキストの処理」というカテゴリーを設けている。
能力 Can do	言語能力、社会言語能力、言語運用能力についての言語能力記述文
	「 <u>使用語彙領域</u> 」、「文法的正確さ」、「音素の把握」、「 <u>正書法の把握</u> 」、「 <u>社会言語能力</u> 」、「発言権」、「話題の展開」、「話し言葉の流ちょうさ」、「 <u>叙述の正確さ</u> 」などのカテゴリーを設けている。

①子供の体調不良による、保育園や幼稚園の先生からの電話によるお迎えを要請する簡単な指示を理解することができる(A2聞く)

→上記活動Candoのほか、方略Candoも
評価の観点となる

②保育園や幼稚園などの連絡帳に、子供の体調で心配なことについて、短い簡単な文で書くことができる(A2書く)

→上記活動Candoのほか、能力Candoも
評価の観点となる

パフォーマンスの質的側面も
評価の観点に取り入れることが大切

自己評価の例

【評価タスク】

ユニット6 「子どもの 病気」

タスク① ロールプレイ

子どもが 通っている 園の先生から
電話が かかってきました。
先生と 話してください。

タスク② 書く／スマホアプリに入力 する

子どもは 昨日まで 風邪で 欠席し
ていました。
今日の 体調の 心配なことについて
先生にメモを書いてください。

ユニット6 Candoチェック (できましたか?)

□に【×できなかった △もう少し ○できた ◎よくできた】を書きましょう

タスク①

園の先生から電話がかかってきた時
簡単な指示を理解することができましたか？

タスク②

子供の体調の心配な点について、園の先生に
短い簡単な文でメモを書くことができましたか？

自己評価の例

自己評価シート

パフォーマンス評価：プレゼンテーション

【Cando チェック】 ×:できなかった △:もう少し ○:できた ◎:よくできた

		B1.2	B2.1
言語活動	プレゼンテーション	自分がよく知っている話題について、事前に準備した簡単なプレゼンテーションができた。 ☐	自分がよく知っている話題に関連した幅広い話題について、明確で詳しいプレゼンテーションができた。 ☐
		要点をまあまあ正確に述べることができた。 ☐	説明を補足しながら、関連する例を挙げて、主張を強化し、展開することができた。 ☐
	質疑応答	質問に何とか対応できた。 (質問者の話すスピードが速い場合や質問がわかりにくい時は、もう一度繰り返しを頼むこともある) ☐	質問に対して、しっかりと正確に答えることができた。 流暢に自然に対応できた。 ☐
言語能力	語彙	まあまあ正確に考えや問題の主要点を説明できる語彙力を持っている。 抽象的な内容や文化的な内容についても、考えを述べるができる。 ☐	言葉を探していることをそれほど感じさせないで、明確に詳細に説明でき、自分の視点がはっきりと表明できる語彙力を持っている。 ☐
	文法	述べようとしていることは明らかに分かるくらいの正確さはあるが、母語からの影響による間違いは時々ある。 ☐	高い文法能力が見られる。 複雑な構造的文を使うことができる。 聴衆が誤解するような間違いはない。 ☐

【感想(プレゼンテーションをして感じたことを自由に書いてください)】

ルーブリック評価の例

ルーブリック【コミュニケーション Step2 (B2.2)】(詳細については第3章2. 参照)

レベル: Step2(B2.2)

科目: 発信表現(発表) スキル: 話すこと(発表) + 書くこと

科目(発信表現 B2.2・発表)の Can Do: 留学生としての教養範囲の、あまり複雑でない社会的・文化的なテーマについて、聴衆を意識しつつ、聞き手に伝わる口頭発表ができる。

この活動の Can Do: 世界的に課題となっているテーマ(たとえば、気候変動、食糧、水の問題等)について、予備知識のない聞き手にも伝わるように視覚情報を使って具体的にわかりやすく発表することができる。

パフォーマンス・タスク: 地域の小学校との交流活動で、4年生の児童30人に「気候変動を防ぐために、私の国・地域でやっていること」というテーマで話をしてほしいという依頼がありました。スライドと発表原稿を作成し、10分程度でわかりやすく話してください。

評価方法: 活動前にルーブリック提示、活動後に自己評価、ピア評価、教師評価を行い、点数化。聞き手である小学生にも別のルーブリック(非公開)で評価してもらう。

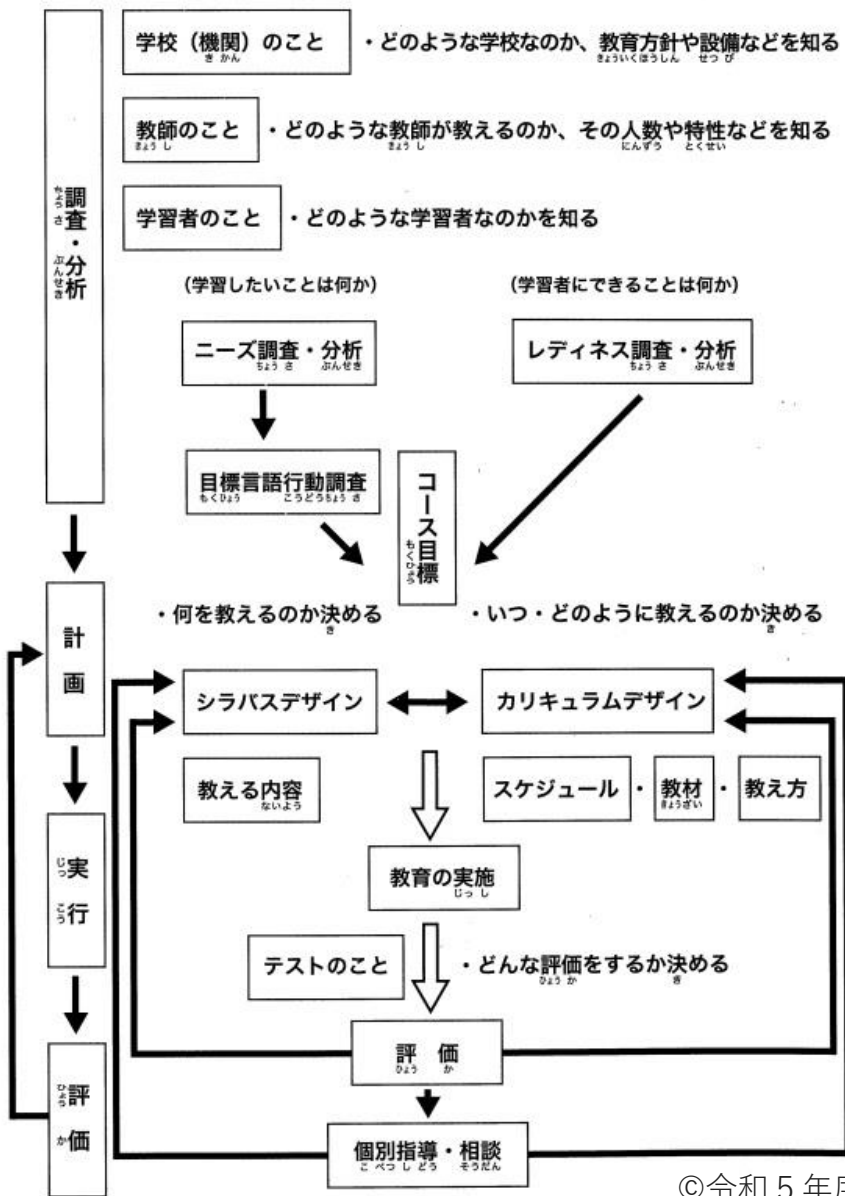
評価尺度の意味: S=到達目標を超え、更に+αの要素を含む、A=到達目標をクリアしている、B=到達目標にやや届かない、C=到達目標に全く届かず、学び直しが必要。

合計点: S=150~101点、A=100~80点、B=79~60点、C=59~0点 計60点以上で合格。

Can Do の種類	評価尺度	S (すばらしい!)	A (できた!)	B (あと一歩)	C (もう一度)	得点	
	評価観点						
活動: 産出・ 話すこと (発表)	① 論理性	気候変動の現象・要因・対策の論理的なつながりが、全く予備知識がない人にも十分に伝わるほど明瞭だった。(30点)	気候変動の現象・要因・対策の論理的なつながりが、ほとんど予備知識のない人にもある程度伝わるほど明瞭だった。(20点)	気候変動の現象・要因・対策を述べたが、予備知識があっても論理的なつながりが見えにくかった。(10点)	気候変動の現象・要因・対策のいずれかを述べなかった。(0点)		
	② 内容の 具体性	自分の国・地域で何をやっているかをきわめて具体的に、はっきりイメージできるように説明できた。(30点)	自分の国・地域で何をやっているかを具体的に説明できた。(20点)	自分の国・地域で何をやっているかを述べたが、ややわかりにくかった。(10点)	自分の国・地域で何をやっているかを全く伝わらなかった。(0点)		
	③ 対象に合う 身近な例	小学生の生活に即した非常に身近な例を挙げた。(15点)	小学生の生活を意識して、身近な例を挙げた。(10点)	小学生の生活についてあまり意識していないが、例を挙げて話した。(5点)	例を挙げないで、抽象的に話した。(0点)		
	④ 対象に合わせた表現	小学4年生が対象であることを明確に意識して語彙・表現を巧みに調整した。(15点)	小学4年生が対象であることを意識して語彙・表現の調整に注意を払った。(10点)	不十分ながらも、小学生向けに語彙・表現を調整しようと意識している。(5点)	語彙・表現を調整しようとする意識が見られず、大人に話すとときと変わらない。(0点)		
方略	⑤ 分かりやすく 伝える工夫	身振りや目的に合った写真やイラスト入りのスライドを使って、聴衆を巻き込む工夫があった。(15点)	写真やイラスト入りのスライドを見せて、伝わる工夫をした。(10点)	写真入りのスライドを見せたが、使い方があまり効果的ではなかった。(5点)	文字だけのスライドを見せたが、伝わるための工夫がなかった。(0点)		
	⑥ 話す前提で 書くこと	小学生30人に話すことを明確に意識し、ごく自然に話しかけるようなスタイルの原稿を書けた。(15点)	小学生に話すことを意識し、耳で聞いてわかる原稿を書けた。(10点)	話すことをある程度意識し、耳で聞いてわかる原稿を書けた。(5点)	話すことを意識しておらず、耳で聞いたときに理解しにくい原稿になった。(0点)		
能力	⑦ 音声と 流暢さ	日本語らしい自然な音声で、落ち着いた流暢に話すことができ、キーワードは非常に明瞭で、音声で気になるところはほとんどない。(15点)	日本語らしい自然な音声で、落ち着いた流暢に話すことができ、キーワードは明瞭で、音声で気になるところは1,2箇所以内。(10点)	流暢さはないものの、キーワードの伝達に支障のない音声で、気になるミスは数か所。(5点)	たどたどしく、音声に強いクセがあり、キーワードが伝わらない。(0点)		
	⑧ 文法・語彙 の正確性	文法・語彙が正確で、未確定な因果関係を客観的に伝える表現(〜ではないかと考えられています等)を正確に使っており、ミスがほとんどない。(15点)	文法・語彙がほぼ正確で、目的を示す表現(〜ために等)を適切に使っており、すべきことと既にやっていることが区別されている。(10点)	文法・語彙がやや不正確で、何がどうしたのか事実関係が十分に伝わらない部分がある。(5点)	文法・語彙のミスが多く、言いたいことが伝わらない。(0点)		
評価尺度ごとの得点合計		／満点	／150点	／100点	／50点	／0点	合計 点

コースデザインに終わりはない

図4 コースデザインの流れ



国際交流基金（2006）『日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房, p.8

最後に頭を切り替えて・・・

この際だから、聞いてみよう

- 本日の1～3コマを通して、モヤモヤは残っていませんか。
- それぞれがイメージすべきは自分の現場
「これってどうなの？ こういう時はどうすればいいの？」は当たり前
- 困難点、疑問点、課題をみんなで共有して、対応策を考えてみましょう。
- 正解ではなく、最適解を見つけましょう。